

# 令和3年度 第3回 藤沢市地域福祉計画推進委員会

## 議 事 要 旨

### I. 開催概要

1. 日 時 2021年(令和3年)11月25日(木)9時30分～11時5分

2. 会 場 藤沢市役所 本庁舎7階 7-1・7-2

### 3. 出席者

(1) 委員=18名

・会場出席者

川原田 武、 椎野 幸一、 松永 文和、 浅野 朝子、 山口 耀子、  
末吉 育子、 伊原 敦、 森 もと江

・オンライン出席者

東田 正喜、 戸高 洋充、 木村 依子、 越智 明美、 宮久 雪代、  
市川 勤、 川辺 克郎、 越川 玲子、 松沢 邦芳、 江崎 康子

・欠席者

石渡 和実、 小池 信幸、 南部 久子

(2) 事務局=10名

・福祉部：池田部長

・地域共生社会推進室：玉井室長、片山主幹、浅野主幹、越川室長補佐、  
山中室長補佐、石田主査、佐藤主査、棚澤、高松

### 4. 議 題

1. 開 会

2. 議 題

(1) 今年度のスケジュールについて

(2) 藤沢市地域福祉計画2026の推進・進行管理について

①進行管理の方法について

②成果目標の達成に関する意見交換

(3) 次期計画改定に向けたアンケート調査について

3. その他

4. 閉 会

## II. 会議の概要（議事要旨）

### 1. 開 会

事務局の事務連絡後、川原田副委員長より挨拶があり議事に入った。

### 2. 議 題

#### （1）今年度のスケジュールについて

《資料1に基づいて事務局 榑澤より説明》

→質疑なし

#### （2）藤沢市地域福祉計画2026の推進・進行管理について

##### ①進行管理の方法について

《資料2、地域福祉計画本編P62に基づいて事務局 榑澤より説明》

○市川委員

進行管理とは、途中経過に対することで良いのか。課題の中で、広報に関する記載はその通りだと思う。「地域等での主な取り組み」に記載されている直接的な普及啓発の具体的なスケジュールを伺いたい。また、自治連などの団体に対して、計画に関する説明会を開催していただくと意識の共有ができるのではないかと。

○椎野委員

成果目標達成の流れについて、推進委員は、全体の状況や数値を見ながら、目標に対してできていない部分や遅れている部分の確認をしようと思っている。その活動による進捗管理を我々委員がするのか明確にしていきたい。

○事務局

進行管理のタイミングについて、3年に1回中間見直しをすることになっており、それに付随してアンケート調査も3年に1回行うことになっている。次のアンケート調査は令和4年度となっている。アンケート調査のタイミングで進行管理を行っていく予定である。現在も各団体に対する普及啓発を行っているが、不足していると感じている。ただ紙を配布するだけではない効果的な周知方法を検討していきたい。Z o o mなども活用して多くの人に知っていただきたいと思っている。

また、次の計画に向けて成果目標が設定されており、計画に基づきどのように取り組んでいくのかという部分を重要視している。各団体での活動や地区の取り組みに関しても、ご意見等をいただきたい。委員が1人で13地区のすべての取り組みを把握することは難しいため、委員会での意見等を踏まえて、事務局側で13地区の取り組みなどを調査させていただくことになる。今回の進行管理の目的は、現時点で皆様が把握している活動や経験を踏まえた中で、意見や指摘をいただきたい。

○椎野委員

進行管理の流れは理解した。2026年までの活動を各地区で整える必要がある。作成した計画に対して、地区がどのようにやるのかというのが見えてこない。良い計画を作成しても活動もしていないなか、我々が評価をすることはできない。他地区の状況はわからないが、御所見地区では、計画に対する策定委員会を3回行った。現場が活動を開始して、市社協から地区の情報を収集することにより、13地区の評価をすることができる。あくまでこれは我々が評価をする際のステップであり、どのようにやってもらうかを考えていきたい。御所見地区でも一般の人はこの計画を把握していない。地区社協も理解できておらず、説明ができない。そこから始めないといけない。環境が整った段階で、初めて我々がこのステップを踏みながら評価をしていくことができる。いかに市民に参画してもらうかが重要である。

#### ○市川委員

13地区の温度差が非常にあると感じている。長後地区では御所見地区のような策定会議はやっていないのではないかと。中間見直しをするための流れは理解した。実際の運用面で、達成の流れのスケジュールを理解し、その流れに沿って行くとよいのではないかと。

#### ○松沢委員

6年後の目標は理念的であり、具体的な進行管理は3年間隔で実際の市民の声をアンケートにより集約し、数値を計るということで良いと思っている。

#### ○事務局

計画に基づいて、どのような取り組みを行っていくのか地区毎に考えていただいているのが現状だと思う。市だけではなく市社協とも一緒に取り組んでいきたい。現状の整理以外に、新規の取り組みに関しては、委員の皆様アイデア出しや、進行管理上で不足している課題などをいただき、各地域や団体と共有をさせていただきたい。そうすることにより、既存の取り組みの整理や新たな取り組み、これまで以上の課題整理をしていきたい。発言にあった通り、地区の温度差が影響すると思う。御所見地区のように活動計画の策定に取り掛かっている地区もあれば、そうでない地区もある。徐々にスタートしている地区に近づくことができるよう取り組んでいきたい。そのために、委員の皆様に取り組むべきことなどの意見をいただきたい。その意見を事務局がまとめて、地域の皆様に伝え、地域福祉を推進していきたい。行政の取り組みに関してもご意見をいただくことで、行政、地域、市社協が連携して地域福祉の推進を図っていきたい。これが進行管理の流れである。

#### ○伊原委員

進行管理の流れに関して、これで良いという確認ができたと思う。地区ごとに、温度差や課題が違うといった中で、我々委員がどういった役割を果たしていくべきなのか迷いがあると感じた。委員会の内容を預かり、CSWが各地区の関係者と話し合う

ということも社協の役割の一つではないかと感じた。委員会の開催を重ねていく中で、より良い意見を見出していくことが委員会の意義である。委員会の意見を各地区に反映させていくことは大事である。

#### ○松永委員

進行管理や評価に関して整理したい。本編の23ページの「圏域の捉え方」に地域福祉を構成する主な団体が表現されている。これは計画の作成時以外にも進行管理においても見ていく必要がある。委員会は、市の地域福祉計画全体の構成や考え方を共有する場だと思っている。図では市が全域をカバーしているが、市が地区の細かいところまで関りを持つのは不可能である。圏域の中での関係機関が協力し合い、進行管理や評価を見ていく必要がある。地域福祉計画は、事業をやっていくことにより、進行管理や評価が明確化していく部分があるため、本日の議論自体、進行管理が始まっていると捉えられる。計画の評価は、目標を立て、そこに向かって圏域の様々な関係機関が、アンケート調査結果をもとに、それぞれの立場でどう動いたのかという過程を周りがどう評価するのかということである。アンケートも人それぞれで感じ方が違う。計画の中で、市全体で見る部分と地区ごとに見る部分の両方がある。作成した計画を如何に実行性の高いものにしていくのかという進行管理や評価に関心が高まっていることは非常に重要である。計画も徐々に成熟していくのではないかと感じている。各団体や社協がアンケート調査の結果を根拠に様々な取り組みをしていく必要がある。それがプロセスになり、評価に影響していく。地域福祉は地域ごとに特性があるため、温度差があって普通であると認識していただきたい。

#### ○川原田副委員長

地域福祉を推進するにあたり、取り組むべき事業やクローズアップすべき事業に関して具体的な案があればいただきたい。

#### ○椎野委員

今一度、整理させていただきたい。問題の1つ目は、地域福祉計画に対する説明責任は市、委員、市社協、地区社協のどこにあるのか。問題の2つ目は、進捗の結果は何をもって把握するのか。アンケートは市民がどう受け止めたかである。問題の3つ目は、計画に対して何をどのようにするのができていない。問題の4つ目は、5年間の年度ごとにどう評価するのか。1年間でやったことなどを年度ごとに確認する必要があるのではないか。23項目をすぐできるものとできないものに仕分けできていない。また、市民は難易度が高いものはできない。問題の5つ目は、自助、互助、共助、公助の役割分担ができていない。近隣との関係が非常に希薄化しているため、互助が一番難しい。福祉の政策は互助をメインに取り組まないといけない。

#### ○事務局

地域との関係性や温度差に関して様々な意見をいただいた。進行管理・成果目標達

成の流れに関しては概ね良いという意見を数名からいただいた。しかし、このプロセスに辿り着くにあたり、取り組みの把握の範囲や、地区ごとの課題感の違いなどについていただいた意見を、徐々に解消し、次の中間見直しの際には、さらに地域福祉が推進されている藤沢市を委員の皆様と作っていきたいと思っている。

この4ページ記載の進行管理の方法によって、成果目標の達成に関するアイデア出し、課題整理などについて、来年3月開催予定の第4回委員会の間に、郵送もしくはメールや対面等でご意見をいただき、取りまとめさせていただきたい。取りまとめした意見は、次回の委員会で提示したい。後日、資料を送付するのでご協力をいただきたい。

### (3) 次期計画改定に向けたアンケート調査について

《資料4、5に基づいて事務局 榎澤より説明》

#### ○山口委員

善行地区にて10月に開催した会議で概要版が配布された際に「アンケート調査の対象者として4,000人は少ないのではないか。善行地区の人口は約40,000人だが、アンケート調査対象者の中で善行地区住民は200人しかおらず、200人だけの声では、これが善行地区の結果とは言えない。2倍、3倍の人数でアンケート調査をしていただきたい。」という意見が出た。また、この4,000人はどのように決定されたのか。次回のアンケート調査は前回とは違う対象者となるのか。

#### ○事務局

藤沢市の人口約43万人の1%として4,000人を算出している。統計学上は1%の人数で調査をすることで概ね100%と同等の結果を把握できるといわれているためである。

#### ○山口委員

人口の1%にアンケートを依頼して、回収率が約50%ということならば、人口の0.5%の2,000人しか回答をしていない。人口の1%の回答を得るためには、8,000人や10,000人を対象にした実施するほうが正確な数値がとれるのではないか。

#### ○事務局

回収率を上げられるよう検討する必要性を感じている。費用面も考慮して考える。

#### ○事務局

こういったアンケート調査を、標本調査、社会調査と呼び、ニーズ把握の手法の一つである。これだけに頼るのは危険という見方もあるが、標本誤差は必ず生じるものである。総合的に考え、行政として一般的に全市的な調査をする際は、3~4,000人が一つの目安となっている。専門業者などの声も参考にしながら、今いただいた意

見も踏まえて検討していきたい。また、アンケートは一般的に人口比率を考慮しながら無作為で行っている。

#### ○江崎委員

オンラインでのアンケート調査を並行して行うことで回答数を確保できるのではないか。地域福祉を広げていくためにも郵送に加えてオンライン調査も行うことで、啓発に繋がるのではないかと。

#### ○川原田委員

アンケート項目の内容や回収率の上昇を目指すにはどういった方法が良いのか、各委員は次回の会議までに考えてきていただきたい。事前に事務局に申し入れしていただいても良い。

#### ○宮下委員

このアンケート調査は、クロス集計されているため、13地区の特性、年齢別の特性など概ねの把握はできていると思う。しかし、期間が短く、十分な回答を得られなかったと感じている。オンラインでも調査を行うことで回収率の上昇は図れるのではないかと。また、アンケート結果では、80代になるとボランティア活動ができないなどの特性が出てきている。これは障がい者やその家族にも同じようなことが言える。福祉団体連絡会において、地域で開かれた活動をしようとして提案しても、自らの生活が大変であるために、役所に目が向かっている団体が多い。そういった状況も含めて、役所の連携を取っていただきたい。地域福祉計画の本編の63ページに庁内連絡会議を年4回開催していると記載があるが、障がい者支援課はこの計画を踏まえて動いているのか疑問を感じている。高齢者支援課に比べて障がい者支援課は遅れている。13地区に特性の違いは出るのは理解できるが、役所の格差を無くしていただきたい。この会議を主体に各課を牽引していただきたい。

### 3. その他

特になし

・次回開催日：令和4年3月28日 本庁舎5階 5-1・5-2会議室

### 4. 閉会

以上